



## 世代をつなぐ平和への想いを大切に

Heart to Heart

### 私と「東京大空襲」

90歳の母は、3月10日の「東京大空襲」の中を生き延びた人間です。日本堤(台東区)の造り酒屋の娘に生まれた母は、東京への空襲が激しくなり白馬村(長野県)に集団疎開しました。3月9日、母は女学校の入学試験で帰京しました。「また、明日」と駅で別れた級友のほとんどが命を落としました。死者10万人以上、罹災者は100万人に達し、東京の「下町」は焼き尽くされました。「燃えてる方に逃げろ」(※)：延焼から守るため家に残った父親(私の祖父)の言葉に従って、頭から被った綿布団に防火用水槽ごとに水をかけながら、熱く怖い炎の中を焼け跡まで走り抜いて、母は奇跡的に命をつなぎました。

91歳の父は、太田市(群馬県)の出身で、戦争末期に少年でも入隊できた「海軍飛行予科練習生(予科練)」に志願しなかったのですが、母親(私の祖母)が「印鑑」を肌身離さず持ち歩き、志願できなかったそうです。父は「呑竜(ごんりゅう)」という重爆撃機を製造していた「中島飛行機太田製作所(後の富士重工)」に学徒勤労動員され、米軍の爆撃をこまかすダミーの飛行機を作っていました。グラマンの機銃掃射が何度も工場を襲い、走って近くの林まで逃げる途中、直ぐ近くで命を落とす級友の姿がありました。戦後、東京で野菜の行商をしていた母親の「これからは本が売れるぞ」という言葉で、父は神田川沿いの出版社が多

清水事務局長の

## ハート・トゥ・ハート

vol.7



くあった地域で製本業に従事しました。

母は、東京府立第一高等女学校(現在の都立白鷗高校)卒業後、九段の「富国生命保険」に就職しました。そんな母と父が九段のダンスホールで出会いました。「燃えてる方に逃げろ」と説いた祖父、「印鑑」を隠し通した祖母、「東京大空襲」を生き延びた母、「機銃掃射」を逃れた父：私の命は強い思いと奇跡によってつながり、いま私の3人の子どもたちに引き継がれています。

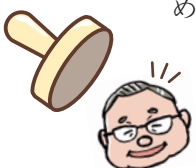
### 平和教育と平和行動の継続を！

私は、教員として平和教育を大事にしてき

ました。夏休みも全校・学年・学級と登校日が3日もあった時代で、『はだしのゲン』『火垂るの墓』『黒い雨』などの映画を子どもたちと一緒に観ました。しかし、2013年以降『はだしのゲン』の描写が過激すぎると学校や図書館から撤去されたり、閲覧制限がかけられたりしました。かつて教科書には平和に関する単元があり、『おこりじぞう』『かわいそうなぞう』『友よ』などの平和を考える教材があふれていました。

連合はこの先も、これまで積み上げてきた平和行動をしっかりと継続していくことが大切です。核兵器廃絶は、連合結成以来の重要な取り組みです。2021年1月発効の「核兵器禁止条約」に日本は参加していない残念な状況ですが、2020年から開催が延期されていた「核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議」がこの8月に開催されることになり、日本から初めて総理大臣が出席しました。ロシアがウクライナへの軍事侵攻で言及した、核兵器使用の暴言は決して許してはなりません。人類共通の悲願である核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて、しっかりと歩みを進めましょう。

平和への思いを受け止め、心をつないでいく。平和教育と平和行動は、時代が変わっても揺らぐことのない、平和のための重要な労働組合の運動であると思います。



清水秀行 連合事務局長

※ 燃えてる方に逃げれば、炎を抜けると燃え尽くされた焼け野原となり、さらに延焼する可能性が低い